

# NEO HABITATION

○小和瀬 匠

○佐々木 爽日

○井富 花音

## □CONCEPT

現在、地球上において人口が80億人を超え、2058年頃には100億人が突破する見通しである。人口の急激な増加で、温室効果ガスの排出量も急増し更なる気温上昇や異常気象、食糧不足になることだろう。近い未来では宇宙で暮らすことが当たり前になるかもしれない。地球上の住宅においては住みたい場所を自ら探し、そしてそこに住宅を建て住むことが一般的である。そのため地球上に住むうえでは制限のかかった自由といえる。そこで私たちは今回、宇宙で暮らすうえで新たな自由を二つ創る。

移動式住宅

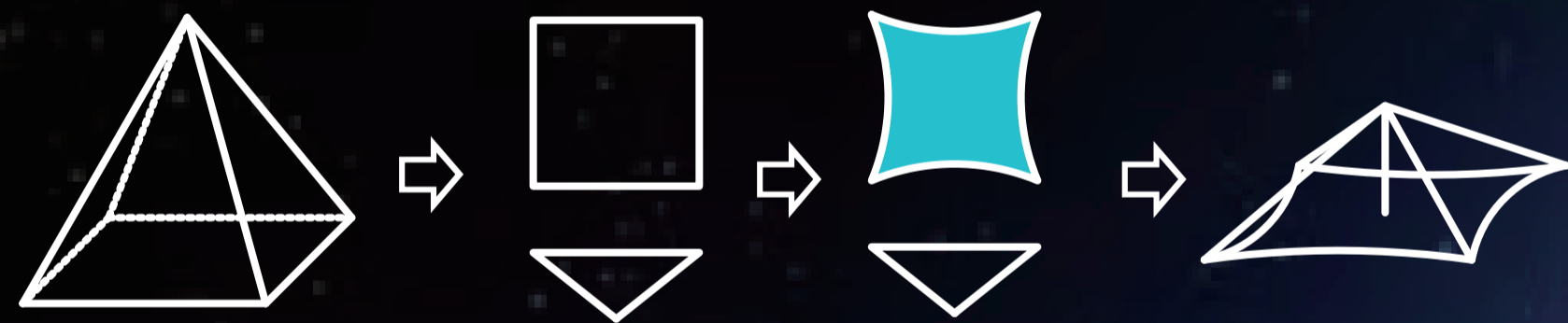
移動式環境

本案では、「移動式住宅」と「移動式環境」をコンポーネントをもとに形成する。すなわちそれは、一度決めた住宅から住宅ごと引っ越しをすることが可能になることや住宅の周辺環境を変えることができるなど可変性の幅が広く自由になるということである。宇宙環境では地球上にはない自由、可能性を私たちは本案で提案する。

## □DIAGRAM

構造：骨組膜構造

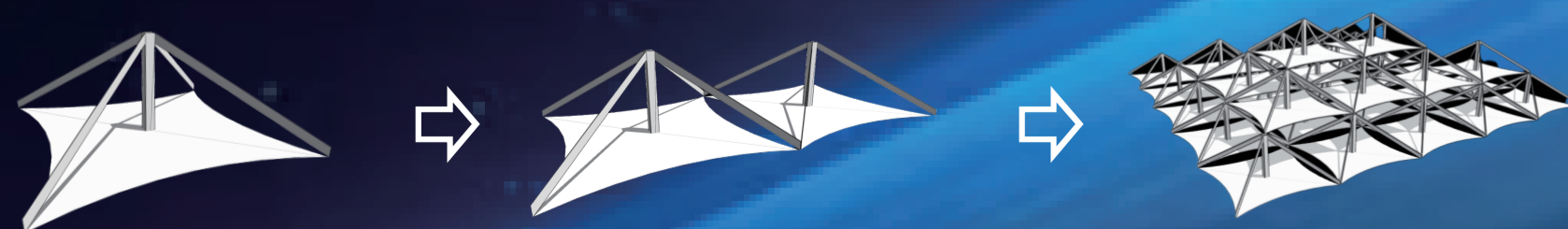
四角錐の形を主要骨組とし底面に膜（水色）を張ったコンポーネント



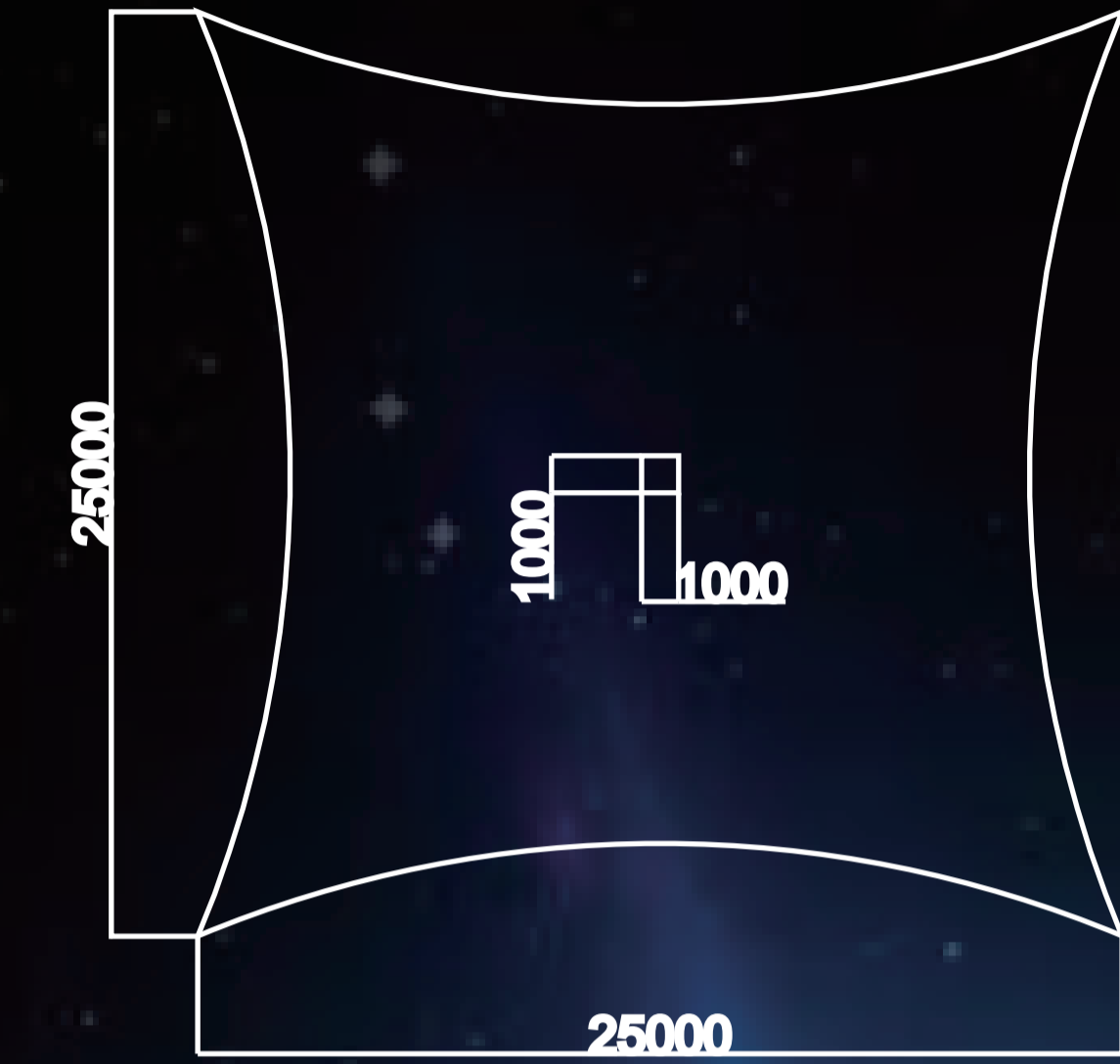
運搬：傘のように可変式で収縮・膨張が可能



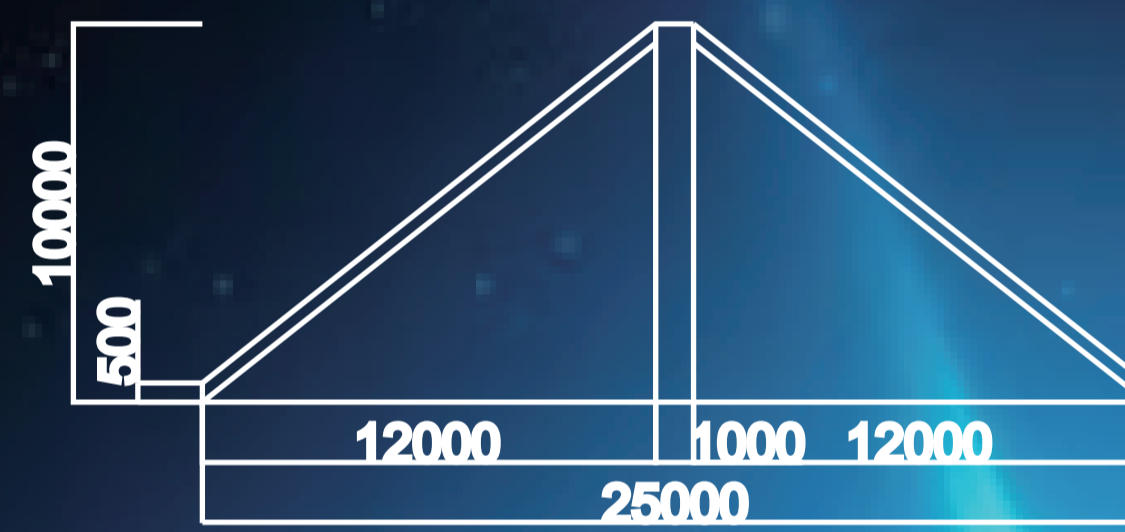
形成：一つのコンポーネントが住居や環境となる。コンポーネント同士がジョイントがあり接合できるようになっており、一住戸から住宅街、さらに増え続けることで世界規模まで発展可能。また自由に環境を周辺に形成できる



## □PLAN



平面図 S=1/200



立面図 S=1/200

